

## 令和元年度 第2回文京区アカデミー推進協議会 会議録

日時	令和元年8月26日(月)午後6時30分～午後7時35分
会場	文京シビックセンター5階区民会議室C
出席	委員：山田徹雄委員◎、田中雅文委員○、青木和浩委員、増田純委員、片貝憲二委員、井上充代委員、酒井宏委員、牧野恒良委員、白井圭子委員、関誠委員、宮内秀和委員、佃吉一委員、堀正孝委員、山内豊委員、高橋由貴子委員、小島えりか委員、今井瑛里子委員(◎会長、○副会長) 幹事：小野光幸アカデミー推進部長、細矢剛史アカデミー推進部アカデミー推進課長、鈴木大助アカデミー推進部観光・都市交流担当課長、川崎慎一郎アカデミー推進部スポーツ振興課長、日比谷光輝アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック推進担当課長、内藤剛一教育推進部真砂中央図書館長事務局(12名)、事業者(2名)
欠席	高澤芳郎委員
資料	資料1 文京区アカデミー推進計画に関する実態調査の調査項目(案)について 資料1-2 調査項目案 資料1-3 調査票案(区民向け調査) 資料1-4 調査票案(事業参加者向け調査) 資料2 文京区アカデミー推進協議会 分野別分科会名簿 資料3 令和元年度 協議会・分科会スケジュール 参考資料1 文京区アカデミー推進協議会幹事名簿
会議内容	
1 開会	
山田会長	それでは時間となりましたので、第2回文京区アカデミー推進協議会を始めさせていただきます。はじめに、7月に人事異動がありましたので、事務局よりご紹介をお願いいたします。
細矢課長	それでは、着座にて失礼いたします。7月8日付で人事異動がございましたので、ご紹介させていただきます。スポーツ振興課長の川崎課長でございます。
川崎課長	皆さんこんばんは。7月8日付でスポーツ振興課長に着任いたしました、川崎と申します。 以前は真砂中央図書館長として、生涯学習文化芸術の分野ということで、参加をさせていただいておりましたけれども、また新たにスポーツという分野で参加させていただきます。皆様のご意見をいただきながら、

文京区のスポーツ振興のために努力したいと思います。よろしく願い  
いたします。

細矢課長  
内藤館長

続きまして、真砂中央図書館長の内藤館長です。  
皆さんこんばんは。真砂中央図書館の内藤と申します。先ほどの川崎課  
長の後任ということで、真砂中央図書館に着任いたしました。  
私は保健衛生部の方からの異動でございましたので、こういった学術・  
スポーツについては、まだちょっと勉強中というところではあるんです  
が、ぜひ勉強してまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いい  
たします。

山田会長

それでは、委員の出欠状況及び配付資料等について、事務局よりご説明  
をお願いいたします。

細矢課長

はい。改めましてこんばんは。アカデミー推進課長の細矢でございます。  
それでは、私より委員の出欠状況をご報告させていただきます。本日は、  
高澤委員の方から欠席のご連絡をいただいております。白井委員につき  
ましては、まだご連絡はございませんが、後程いらっしゃるものと思わ  
れます。

続きまして、本日の資料につきまして、ご説明させていただきます。  
事前に、資料4点を郵送させていただきました。郵送しております配付  
資料は、資料1「文京区アカデミー推進計画に関する実態調査の調査項  
目（案）について」、資料1-2「調査項目案」、資料1-3、少し分厚  
いものですが「調査票案」、参考資料といたしまして、参考資料1、ただ  
いまご紹介いたしました「文京区アカデミー推進協議会幹事名簿」にな  
ります。

本日席上配付の資料もございますので、そちらについてもご確認をお願  
いいたします。席上に配付をいたしておりますのが、資料1-4「調査  
票案（事業参加者向け調査）」、資料2「文京区アカデミー推進協議会 分  
野別分科会名簿」、資料3「令和元年度 協議会・分科会スケジュール」  
以上3点でございます。

資料の過不足などございましたら、挙手をお願いいたします。

説明は以上です。

山田会長

よろしいでしょうか。それでは議題に入ってまいります。議題1「文京  
区アカデミー推進計画に関する実態調査の調査項目（案）について」で  
ございます。それでは、事務局より説明をお願いいたします。

## 2 議題

### (1) 文京区アカデミー推進計画に関する実態調査の調査項目（案）について

細矢課長

はい。それでは、資料 1「文京区アカデミー推進計画に関する実態調査の調査項目（案）について」をご覧ください。

資料 1-2、1-3、1-4 まで資料がございますので、資料 1-4 まで一通りご説明をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

それではまず資料 1 の目的でございます。来年度、次期アカデミー推進計画を策定するにあたり、区民の意識、活動状況等を把握するために実態調査を行うものです。

2 の調査対象者及び方法でございますが、満 20 歳以上の区民 2,000 人程度を無作為抽出し実施する区民向け調査と、事業の参加者に対し実施する事業参加者向け調査を行います。

事業参加者向けにつきましては、9 月下旬から 11 月下旬までに行われる 5 分野の事業をピックアップいたしまして、参加者に回答をお願いするものでございます。

3 の調査内容でございます。恐れ入りますが、次ページの資料 1-2 をご覧ください。調査項目案と書かれた、表になっているものでございます。項目のカテゴリーは、スポーツなど「5 分野」と「回答者自身について」、「共通目標」、「横断的施策」と 8 つに分けております。

欄外の左側に◎がついているものは、5 年後の姿を描くための新規の設問となっております。無印のものは、前回平成 26 年度に実施した前回調査と同様の質問でございます。5 年前との比較を行うための設問となります。

特徴といたしましては、まず、「回答者自身について」の一番上のところでございますが、6 番以降の質問に全部◎がついております。これにつきましては、地域とのつながりや区への関心・愛着を聞くものでございまして、各分野の項目とクロス集計を行い、現状を浮かび上がらせるための項目となっております。

5 分野それぞれ最後の質問、スポーツですと 11 番、文化ですと 12 番ということになりますが、そこでは現在の分野別目標における満足度・重要度を聞く項目を新たに設定しております。これは、現在の計画全体の評価及び新たな計画における目標設定に活用していくものでございます。また、設問数は、前回は 61 問でしたが、今回は裏面を見てくださいと、トータルのところでは 68 問となっております。これは、今お話しいたしました、地域のつながり、区への関心・愛着や分野別目標における満足度・重要度を聞く項目を追加したことなどによるものでございます。具体的な質問につきましては、資料 1-3 をご覧ください。1 から 2 ペ

ージにつきましては、「回答者自身に対する項目について」になりまして、5分野についてクロス集計をする際に必要な項目になるものでございます。

続きまして3ページから6ページが、「スポーツに関する項目について」でございまして、6ページの間11で、現行計画のスポーツ分野で掲げている、4つの分野別目標における満足度・重要度を聞く項目を設定しております。

7ページから10ページが「文化芸術に関する項目について」になります。やはり10ページの間12で、現行計画の文化芸術分野で掲げている、3つの分野別目標における満足度・重要度を聞く項目を設定しております。11から13ページが「生涯学習に関する項目について」になりますけれども、こちらでも13ページの間10で、現行計画の生涯学習分野で掲げている、3つの分野別目標における満足度・重要度を聞く項目を設定しております。

続きまして14から16ページ、こちらが「観光に関する項目について」になっております。やはり16ページの間8で、現行計画の観光分野で掲げている、3つの分野別目標における満足度・重要度を聞く項目を設定しております。

続きまして17から19ページ、こちらが「国際交流・国内交流に関する項目について」でございます。こちらは18ページの間6で、現行計画の国際交流分野で掲げている、2つの分野別目標における満足度・重要度を聞く項目を設定しております。なお、国内交流分野の間7・間8・間9につきましては、今年度から区民課からアカデミー推進課に移管された分野になっておりますので、現行計画では分野別目標を定めておらず、設問として設定はしておりません。

20ページは、「共通目標に関する項目について」でございます。区民が期待する5分野を通じてもたらされる効果について、把握する設問を設定しております。

21から22ページについてですが、申し訳ありません。ここで1点訂正がございます。表題が「5分野を横断的にすることについて」という題になっておりますが、こちらを「横断的施策に関する項目について」に訂正させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

現行計画で横断的施策としているオリンピック・パラリンピックに関すること、情報の収集・共有・発信に関すること、ボランティア活動に関することの3点につきまして、取組状況を把握する設問を設定しております。

最後に、資料1－4をご覧ください。事業参加者向け調査の内容でございます。こちらが「文京区アカデミー推進計画に関するアンケートのご協力をお願い」ということございまして、生涯学習講座、スポーツ体験事業や文化体験事業などの事業に参加された方にこのペーパーをお渡しいたしまして、後ほど、QRコードをスマートフォン等で読み取って、ページにアクセスしていただいて、回答していただく形になっております。内容は次のページにございますように、コンパクトに7つの設問に回答していただくようになっております。なお、QRコードを読み込むことができない場合は、用紙をお渡しし、紙回答もできるようにいたします。

それでは一番最初の資料1にお戻りいただき、5番のスケジュールをご覧ください。9月～11月で区民向け調査、事業参加者向け調査を行い、その後、調査結果につきまして、1月に第3回アカデミー推進協議会を開催し、2月の定例議会 総務区民委員会でご報告をして参ります。説明は、以上でございます。

山田会長

はい、ありがとうございます。また今のご説明で何かご質問ございませんでしょうか。

ご発言いただく際にはまず挙手していただきまして、こちらから指名させていただきます。その際にお名前を名乗っていただき、ご発言をお願いいたします。

いかがでしょうか。

田中副会長

よろしいですか。それじゃあ特に今ご質問、ご意見ないようなので、ちょっと私の方からいくつかコメントさせていただきます。

事前にこの調査票については、今委託を受けている創建さんのスタッフと打ち合わせをさせていただいて、大体その時点では「これでいいな」、という風に思っていたんですけども、今改めてまた、この間送られたのを拝見したときに、ちょっと気になる点がいくつかあるので、コメントをさせていただきます。最終的には事務局と創建さんの方で、また調整していただければいいのかなとは思っています。

大きく分けて6つほどあるんですけども、簡単にいきます。

1つは調査票の11ページを見ていただくと、いわゆる生涯学習という分野と、文化・芸術とスポーツの部を、重複というか、境界領域をどうするかということについての説明があります。点々枠の下を見ると、「文化・芸術に関する講座への参加は生涯学習活動とします」。それに対して「鑑賞とか創作活動等は文化・芸術活動とします」ということで、同じ文化・芸術でも、講座に参加するのは生涯学習、それから鑑賞とか創作

活動は文化・芸術、という風な説明だと思うんです。ただ、実際にはその講座の中で鑑賞するとか、講座が発展して創作に繋がるとか、なかなかそう、割り切れるものではなかったりすると思うんですね。

それからもう1つは、この問1の中に、選択肢の5番目にスポーツが入っていますけれども、この説明では特にスポーツと生涯学習の区別をどうするかって書いていないんですが、大きな領域の1つがスポーツで、また大きな領域の1つの中の生涯学習に、5番目の項目にスポーツが入っているの。ただスポーツはやはり文化・芸術と同じように、自分で楽しむのと、講座に参加するのを分けるかどうかって、これは結構難しい問題で、スポーツ教室に通いながら自分でも楽しんでいるので、大抵は両方入ってくるんですね。ですので、大きい分野のこの関係については、スポーツと文化・芸術は、今あるままでいって、生涯学習のところの説明をですね、文化・芸術とスポーツで答えた方も、特にそれらの分野で講座とか教室等の学習機会への参加をしている方は、ここでも該当するものがあれば丸をつけてください、とか、そういう感じで重複していいことにする、という方が、自然に答えられるのではないかなという風に思いますので、ちょっと検討していただいたら良いのではないかと思います。それが1番目です。

それから2番目は、文化・芸術の問8、ページでいうと9ページになります。それから文化・芸術の問11、というのは、それぞれ区の課題が書いてありますけれども、問8は鑑賞以外の活動ということで、問11は鑑賞と活動をひっくるめて、ということなので、この2つは統合してもいいのではないかな、という風な気がしましたので、ちょっと検討していただけたら、と思いました。

それが2番目で、3番目が先ほどの生涯学習に戻るんですけども、11ページで、点々枠を見ると生涯学習活動への参加は講座への参加を中心とした云々とありますけれども、以下その調査票の中では、「生涯学習活動」への参加という言葉は出てこなくて、「学習活動」という言葉で通しているんですね。ですからここは「生涯学習活動」への参加じゃなくて、「学習活動」という風に、点々枠もしておいていいのではないかと思います。それと共に、問1の中で学習活動（趣味を含む）と書いてますけれども、ここでいう「趣味」がちょっと分かりにくいんですね。分野としての趣味なのか、いろんなものを趣味的にやっている場合もそうなのか、ただ趣味的にやっているって一体何なのか、上の点々枠では講座への参加を中心とする、と書いているので、自分で一人で楽しんでいるのはちょっと違うようにも思うし、でも私は勉強しているんだ、と

いう人はどうなのかとか。ちょっと分かりにくいので、この辺もう1回、ちょっと再度定義を整理させていただいていいんじゃないかと思います。以上が3つ目です。

それから4つ目が、区の課題とか視点、施策の視点について書いてあるところが、スポーツと文化・芸術と生涯学習は大体同じような言葉遣いなんですけれども、観光と交流については、観光の間4とか交流の間9は、ちょっと表現の仕方が違うんですね。力を入れる云々という表現じゃなくて別の言葉になっているので、これは分野の性格上、こっちの方が分かりやすいという風に、あえてしたのであればいいんですけれども、そうでないならもう1回ちょっと横並びに見てみて、言葉遣いをそろえた方が良さそうものはそろえて、でも分野の特色で、特にこういう表現がいい、というのはそれを残すということで、もう1回整理させていただいていいんじゃないかと思いました。

ちなみに文化・芸術の、先ほど問8と問11を統合した方がいいとは言いましたが、もし統合しない場合は、問8はただ力を入れると書いてあって、問11は「より」力を入れると書いてあるので、この辺はちょっと統一した方がいいのではないかと思います。以上が大きい4番目です。それから5番目が観光のところなんですけれども、観光の間5のところで、ボランティア活動を試みたいかというので、「したいと思う」、「したいと思わない」、「どちらともいえない」、がありますが、すでに行っているという人がちょっと答えにくいので、4番目に「すでに行っている」、を入れた方がいいのではないかと思います。

それから問7なんですけれども、選択肢の中の1番、旅行サイトで分かれればいいんですけれども、これインターネットのことですよ。ここでいうサイトは、丁寧に書くには、インターネットの旅行サイトとかした方が、あんまりインターネットに慣れていないけれど、見てるっていう人は、分かりやすいんじゃないかなと思いました。それから旅行代理店っていう選択肢はいらぬのかどうか。人数的にはあまり、数がたいしたことがないっていうのであれば、除いてその他に入れてもらえばいいんでしょうけれども、一応区内にも旅行代理店あるでしょうし、代理店の方から見ると、このパーセントって結構重要なデータになるかもしれないので、一応そういうのも入れていいんじゃないかと思いました。以上が5番目です。

それから最後6番目は、21ページですけれども、文京区に「形成された」という言葉がちょっと固いような感じがするので、例えば、文京区に「もたらされた」ぐらいの方が、一般区民から見ると馴染みやすいかな、

という風に思いました。以上です。

大体打ち合わせで終わっているつもりだったんですけれども、改めて見ると少し気になったので言わせてもらいました。ありがとうございました。

山田会長 6点ほど指摘いただきましたけれども、事務局の方から何かありますでしょうか。

細矢課長 ありがとうございます。今6点ほどいただきましたけれども、言葉の使い方等につきましては、また揃えさせていただきたいと思っております。また、文化の方の問8、問11のところは、再度検討させていただきたいと思っております。

その他につきましても、今お話いただいたところは、再度事務局の方で調整させていただきまして、修正をするところはさせていただきたいと考えております。ありがとうございました。

山田会長 ご指摘いただいた部分については、もう一度精査させていただくということでございます。他にございますでしょうか。では山内委員お願いいたします。

山内委員 アンケートに答えられる方が、すぐに答えられるかという観点からすると、6ページの問11、スポーツについて、他の分野も共通ですが、特にアとイですが、機会の拡充とスポーツ活動の促進の違いがすぐに分かるのかというのが気になります。これはアカデミー推進計画自体を見ればすぐに分かりますが、この設問項目だけを見たときに、機会の拡充というのが、いろいろと見たり聞いたりとか、勉強したりとか、そういうことの活動のことをいっているのかどうか、理解が難しいのではないのでしょうか。

イの方では、実際にスポーツを自分がやっていることの意味、ウでは施設とかその充実のことを意味しているのではないかと思うのですが、この項目だけで、すぐに理解できるのか、ということです。具体的に、何を意味しているのが分かるように書かれると、回答する人が対応しやすいのではないかと思います。

それからもう1点、14ページの問2の区内への観光客が増えるとどのような良いことがあると思いますか、の設問の4ですが、1、2、3、と比較すると、レベルが少し異なり若干何か違和感があるような気がします。回答する人がこれが何かいいことなのかな、という風に思わないかなと感じました。以上です。

山田会長 2点ほどご指摘いただきましたが、いかがでしょう。

細矢課長 6ページの選択肢につきましては、先ほどご説明いたしました、各分

野の重要度と満足度ということで、現行計画の目標を入れてございます。分野別目標を達成できているかどうかを確認するための項目になるんですけども、アカデミー推進計画から抜き出したものでございますので、そのままの記載になっており、やはり委員がおっしゃるとおり、これだけ見ただけでは少し分かりづらい部分もあるかと思っておりますので、ここは後程、私どもの方で注意書きがどういう形で出来るか、もう少し分かりやすい形での設問にできるかについては、少し工夫をさせていただきたいと思っております。

14 ページの問2の選択肢につきましても、もう一度確認をさせていただいて、よりよい選択肢に、もう少し違和感のない選択肢にできるかどうか、検討させていただきたいと思っております。

山田会長 山内委員よろしいでしょうか。はい。先ほど挙手していただいた、今井委員お願いいたします。

今井委員 調査票の個別の項目というより、全体の話と方向についての質問なんですけれども、今回かなり調査項目を増やしたということで、これまでの2倍近くになっているのかなと思っております。前回の協議会の時に、かなり回答率がいいというお話があったんですけども、今回かなり増やしてしまうことによって、回答率に影響はしないかということが少し気になりました。そこら辺はどのようにお考えかということと、先ほど田中さんの方からも、場合によっては設問の統合ということもございましたので、できるだけ回答者の方の負担を減らせるようなことが出来ればな、というのが意見です。

もう1点が、事業参加者向け調査の方で、手法のところでもしかして説明されたかも知れないんですが、これはどのくらいの事業数で、どのくらい配付して、どのくらい回答が集まるといいか、みたいな目標みたいなものがありましたら、お聞かせいただければと思います。

山田会長 2点ほどでございますが、1つは調査項目が増えてちょっと厄介だということで、回答数が落ちるのではないかという点ですが。

細矢課長 前回は61問で、今回は68問ということで、7問増えているところでございます。前回は1974人にお送りして、915人の回答を得たということで、46.4%の回答率ということでございます。ですので、今回も2000ちょうどくらいのところをお送りする予定でございます。

今回少し欲張ってというか、次期計画では指標を設定したいということもございまして、いろいろ聞くことが増えてしまったということもございまして。ただこれでも選択肢はいろいろ検討して、少しでも選ぶ負担を減らすということで、統合はさせていただいているところなんです。

先ほど田中先生からも統合というお話がありましたが、1つでもそういうものは統合できれば、より設問数も減りますので、そこは今一度検討させていただきたいと考えております。区民の皆さんに何とかお答えいただけるように、努力をしていきたいと考えております。

あと、事業参加者向けですが、生涯学習、スポーツ、文化・芸術、こちらにつきましても事業数が非常に多いことから、事業をピックアップいたしまして、一事業の参加者数も非常に多いものがございますので、回答数としてはその3分野は、400～500人くらい回答いただけるとありがたいと考えております。ですので各分野1000人くらいは配らせていただきたいと思っております。

あと、観光と交流についてですが、観光は事業はあるんですが、やはりお祭りや物産展などもございますので、そういう不特定多数イベントというのを抱えておりますので、どのような形でアンケートが取れるかというところ、そこでも非常に多く取れると思っておりますが、区民だけでなく区外の方も多いため、そういうところは工夫が必要かなと考えております。

また交流につきましても、少し事業数が少ないので、分野によってバランスが悪いところがありますので、9月から11月に行う事業はすべて網羅したいと考えておりますし、足りない部分につきましては別途ヒアリングをすとか、補足をしていきたいと考えているところでございます。

今井委員

すみません、先ほどの1つ目の質問の方は、新規に追加するという前提で質問させていただいたので、61問で46.4%という回答数であれば、7問というのはすごく大きな負担ではないのかなという風に思いましたので、ありがとうございます。

山田会長

今井委員よろしいでしょうか。はい、それでは増田委員お願いいたします。

増田委員

文言の分かりやすさだけなので、特に内容ではないんですが、「はい」と「いいえ」で答える設問が問6から問8、このアンケートではこの3つだと思っておりますが、年齢にもよるんですが、この「はい」、「いいえ」よりは、面倒でもちょっと問題文の繰り返しという形で、例えば4ページの間4のように、もう一度、例えば「愛着がありますか」のところは「1はい」ではなくて、「愛着がある」とか。2番は「どちらかといえば愛着がある」という、文言を繰り返した方が分かりやすいのではないかと。問6から問8についてはちょっとご検討いただきたいと思います。以上です。

細矢課長

ご意見ありがとうございます。確かに5ページですとか、関心がありま

すか、で「関心がある」、「関心がない」というような書き方をしておりますので、こちらにつきましては統一をさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

山田会長 他にいかがでしょうか。大変貴重なご意見、今後の検討材料にさせていただきますので、よろしく願いいたします。

田中副会長 度々申し訳ありません。先ほどの山内委員のコメント、観光の14ページで、言われてみてちょっと気になったのが、問2と問3が、良い面と悪い面の対比ですけれど、問3の方がとても具体的で、また項目数が多いということで、なんとなくこれ見ると、悪いことがあるんじゃないかな、って印象を受けやすいので、形の問題ですけれど、問2と問3は選択肢の数をそろえた方がいいんじゃないかな、と思いました。

もう少し、例えば白井委員も観光団体の委員になっていらっしゃると思いますので、区民から見て、観光客が増えることのメリットってというのが、もう少し具体的に、こんなものがあるんじゃないかっていうのがあれば、出していただいて、問2も8つの選択肢があると、少し安心をするという気がいたしました。最後はお任せします。

それからもう1点ちょっと気になるのが、事業参加者向け調査の話が出ましたが、区民向け調査は統計的にかなり代表性のある形で取りましますけれども、事業参加者はたまたまどの事業を取るかで、かなりブレる可能性もありますよね。ただ、実際関係している人の意識というのは、それはそれで意味があると思うので、これをやる意味があると思うんですけれども、最後報告書で表記するときに、できれば別々に結果が表記された方が、ちょっと印刷費が2倍になるかも知れないですが、並べてうまく見れるようにすれば、いずれにしても(1)のデータは大事なので、これはこれで独立でちゃんと表現できるという方がいいのではないかと思います。

細矢課長 先生からご指摘いただきましたが、観光の方の、確かに言われてみればというところがございますけれども、設問数が少ないといろいろな意味で取られるということもございます。これにつきましても先ほどの4番の観光ボランティアの活躍というものと一緒に、検討させていただきたいと思います。

事業参加者アンケートにつきましても、報告書についてはどういう形で報告するかということに関して、先生方とご相談させていただきたいと思いますが、分かりやすいように報告書を作成していきたいと考えております。

山田会長 よろしいでしょうか。観光の場合、確かに見た目でもメリットとデメリット

トが、大分ボリュームが違うような印象を与えるということなんですけれども。はい、どうぞ。

今井委員

すみません、今ちょっと気づいたので1つ追加なんですけれども、区民向けの方の15ページのところの文京区の観光資源のところの記載についてなんですけれども、区の観光イベント、1の花の五大まつりってあるんですけれども、花の五大まつりってなんだっけ、っていうのがちょっと。あじさいまつりとか、そういう固有名詞だったら多分知っている方いらっしゃるのかなと思うんですが、花の五大まつりってちょっと、分からない方もいらっしゃるかなと思ったので。スペースの制限もあるかと思うんですけれども、注釈があった方が回答しやすいんじゃないかと思いました。

細矢課長

ご指摘ありがとうございます。知っている者が作るとどうしてもこのようになるのかなということはございまして。すみません。これにつきましては、確かに、五大まつりが何か分からない方は多数いらっしゃると思いますので。記載をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

山田会長

いかがでしょうか。はい、どうぞ。

片貝委員

私今回初めてなので、今までの調査が全部同じパターンでやられているのかどうか、知りませんので教えていただきたいんですけれども、各項目の最後に重要度と満足度という風に2つ並べてアンケートされているわけですね。私これ、個人的に丸を付けていって、ちょっと答えづらいなというのが最後の部分、重要度と満足度なんです。今までこのパターンでやってこられたんだと思うんですが、その辺の、目的というか。判断をね、どうしてこれ2つ分けているのか。私の感じではですね、重要度だけでもいいんじゃないかなと。

つまり重要度というのは、非常に客観的な指標ですよ。満足度というのは非常に主観的なんです。だからこれを同時に答えないといけないとなると、ちょっと頭が混乱してくるんですよ。だから一般的にこういうアンケートを出してね、区民の方に負担にならないかなと。質問も多いということですし。

ですから、これは何でこのパターンでやってるのかな、ということをまず教えていただきたいなど。それから2番目は重要度だけでもいいんじゃないか、というのが私の感想なんですけど。以上です。

細矢課長

2点ほどご質問いただきましたけれども、各分野一番最後に、重要度と満足度を入れさせていただいていると、先ほどお話をさせていただきましたが、この設問は今回が初めてで、前回はありませんでした。

今回なぜこれを入れたかといいますと、次回の、来年度検討いたします、次期アカデミー計画につきましては、やはり指標といいますか、数値化をしたいと。それを評価できるようにしていきたい、というのがございます。現行計画を見ていただくと分かるんですが、そういう指標がないんですね。なかなかそれを毎年どこまでやっているか、どこまで達成しているかという評価が難しいというのがございます。

ですので、その辺の反省点を活かす形で、今回どのような形で指標が作れるかというところを検討した結果、今回ちょうど区民の皆さんに意見を伺うこの実態調査の機会がございますので、そこで現在の計画の分野別目標、これがどこまで出来ているかというか、どう思っているかというのを率直に聞きたいということで、この重要度と満足度。まさにこれは、主観的なところが多分にあるとともに、定性的な指標、評価という形にはなるかと思いますが、そういうものを合わせて評価につなげていきたいというのが、ここの質問でございます。

重要度と満足度につきましては、やはり重要というところと、重要じゃなくてもそれを自分が満足しているか、というところもあるのかな、と思いますので、ここは2つに分けて、分野別目標のどれが重要かという視点と、個別に見たときにその目標が満足いくものかどうか、といったところを伺いたいということで、この2つの視点から設問を作っているものでございます。

事業者

今の説明に追加で2点ご説明させてください。

この重要度と満足度を聞く設問は、アカデミー推進計画では初めてということなんですけれども、行政のこういった施策に関する評価に当たっては、重要度と満足度を聞くのは結構多いやり方なんです。先ほど細矢課長がおっしゃられたように、重要だと選択されているにも関わらず、満足度が低いという分野をあぶりだしていく方法として、割と広く使われているものです。

もう1つそれが多く使われている中で、1点ちょっと我々の設問の文章も考え直した方がいいかな、と思っているのは、重要度も満足度と同様に、主観で回答していただくべき。あなたにとって大事ですか。あなたにとって満足していますか、という形で回答していただくのが望ましいので、その点については各分野の最後の問題のところ、あなたにとっての重要度及び満足度をご回答ください、というような文言に変更したいなという風に考えております。ありがとうございます。

山田会長  
片貝委員

片貝委員いかがでしょうか。ご満足いただけないでしょうか。

あまり満足できる回答ではないんですがね。これね、どちらかといえば

っていうのが2つ入ってるんですね。「どちらかといえば重要」、「どちらかといえば重要ではない」。それから満足度も両方そうなんです。これだね、迷っちゃうんですよ。だからね、これを4つの選択肢ではなくて、「重要である」、「重要でない」、「どちらでもない」3つくらいにした方が分かりやすいですよ。4つあるとね。どれ選んでいいか分からなくなる。どうせデータ化するわけでしょ。ポイント化したいわけですよ。じゃあ3つだって同じですよ、それは。だから私の意見としては、そういう風に申し上げております。答えるときに迷うんですよ、非常に。

細矢課長

ご意見ありがとうございます。片貝委員の方からご意見ございましたけれども、答える選択肢については、迷われるというお話がございましたので、これもちょっと事務局の方で検討させていただきたいと思います。ありがとうございました。

田中副会長

度々申し訳ございません。今の重要度と満足度なんですけれども、選択肢が「重要である」、「重要でない」と、「どちらともいえない」とかいう風になると、経験的には調査の場合、真ん中にかなり寄りやすくなるんですね。ですからこれ、多分あえて真ん中の項目をなくして、どっちかに決めてほしいということでやったんだと思います。その場合、○、×というのはとても、特に日本人の場合、あんまり明確に答えたがらないという傾向があるといわれていて、「どちらかといえば」というのを入れた方が、どっちかに寄ってくれるというのがあるので、恐らく3つとか5つではなくて、4つの選択肢にして、「難しいけど、どっちかといえばこっちかな」というので、つけていただくということで、やったんだと思いますので、この辺は創建さんの調査のこれまでのノウハウを背景にして、決めていただければいいと思います。

それからちょっと気になったのが、全ての分野で、例が「外国人が快適に過ごせる環境づくり」となっているんですけども、たまたま見たら18ページの交流のところ、例とイの項目が同じなんです。ですので、ちょっとこれは例に引っ張られやすくなる可能性があるんで、例としては、どの項目にもないものをちょっと考えていただいて、当たり障りのない項目で作っていただいた方がいいかなと思います。

山田会長

まあ定性的なものを定量的に把握しようとする、いろいろ微妙な問題というのは出てくるだろうな、という風に思うんですけども。

はい、小島委員お願いいたします。

小島委員

先ほどの重要度と満足度の項目がちょっと分かりにくいという点で少し思ったことがあるので、発言させていただきます。

恐らくこの重要度と満足度が分かりにくい原因は、多分視覚的に、この

ように表になっていることで発生しているのではないかな、と思います。そのため「どちらかといえば」というところの分かりにくさを克服するためには、このような表の形よりも、もしかしたら線分図のように項目の横に線を置いて、その中で4、3、2、1という風に区切った方が、回答者の方にとってより分かりやすくなるのかなという風に思いました。その際、恐らく重要度と満足度が、並列して置いてあるということも分かりにくさの原因の1つであるかと思しますので、調査の項目が1つ増えてしまうことになってしまうんですけども、重要度と満足度をこのように横に並列するのではなく、縦に並べて配置した方が、この分かりにくさの克服に繋がるのではないかと考えました。よろしく願います。

細矢課長           ご意見ありがとうございます。重要度と満足度についてご意見頂戴いたしましたので、参考にさせていただきながら、私どもの方で、より答えていただけるような形にさせていただきたいと思しますので、よろしく願います。ありがとうございました。

山田会長           貴重なご意見いろいろとありがとうございます。その他ございますでしょうか。それでは今日頂戴いたしましたご意見を反映させるような形でもって、一層精査していただきたいと思いますので、よろしく願います。

それでは次に参ります。続きまして議題2「分野別分科会について」でございます。こちら説明は事務局より願います。

## (2) 分野別分科会について

細矢課長           はい。それでは続きまして、資料2「分野別分科会名簿」についてご説明をさせていただきます。

まず、分野別分科会でございますが、第1回の協議会でお話させていただきましたが、今年度のアカデミー推進計画の点検・評価を行うために開催するものでございます。

後ほど、スケジュールのところでご説明いたしますが、11月から12月で実施いたします、各分野2回の分科会でご議論いただき、1月に開催します第3回の、この協議会で全体を検討し、まとめていただくということになります。評価の具体的な方法につきましては、現在、事務局で詰めておりますので、分科会の前に、進め方の資料を皆様にお配りさせていただきたいと考えているところでございます。

それでは、資料2でございます。分科会座長につきましては、先生方にお願いしており、各分野の関係団体の方々と、区民公募委員の皆様には

事前に希望調査をさせていただき、その結果の構成となっております。時間の都合上、各座長のみご紹介させていただきたいと思います。各委員につきましては、名簿をご確認ください。

まず生涯学習・文化芸術分科会の座長は、田中先生にお願いしております。よろしく願いいたします。スポーツ分科会の座長は、青木先生にお願いしております。よろしく願いいたします。観光・交流分科会の座長は、山田先生にお願いしております。よろしく願いいたします。先生方、よろしくどうぞお願いいたします。以上でございます。

山田会長

ただいま分野別分科会についてご説明がございました。何かご質問はございますでしょうか。よろしゅうございますか。

では、次に参ります。その他になります。では今年度の協議会・分科会のスケジュールについて事務局よりご説明いただきます。

細矢課長

それでは資料3「令和元年度協議会・分科会スケジュール」についてご説明をさせていただきます。

第1回、第2回分野別分科会でございます。まず、生涯学習・文化芸術は、第1回が11/12(火)、第2回が11/25(月)でございます。スポーツは、第1回が11/11(月)、第2回が12/2(月)。観光・交流は、第1回が11/14(木)、第2回が11/25(月)でございます。いずれも、時間は18時30分からとなります。

場所は、現在調整中でございますので、後日ご一報としてメールでご連絡をさせていただきます。正式には、開催通知をご送付させていただきますけれども、まずは後日メールで場所のご連絡をさせていただきたいと思っております。

続きまして、第3回協議会につきましては、来年の1月20日(月)18時30分から、場所は第1回協議会を開催いたしました、このシビックセンター24階の区議会第一委員会室となります。ですので、今日と場所が違います。第1回と同じになりますので、よろしく願いいたします。これにつきましても、後日通知をお出しさせていただきたいと思っております。説明は以上でございます。

山田会長

ただいま分科会と第3回の協議会のスケジュールについて、説明がありました。何かご質問はありますか。本日の議題は以上でございます。

最後に、事務局より事務連絡をお願いいたします。

細矢課長

はい。熱心なご議論ありがとうございました。

それでは私の方から、事務連絡を2点させていただきたいと思っております。

1点目ですが、本日も議論いただきました、実態調査の調査項目案につ

いて、いただいたご意見につきましては、事務局で調整し、可能な範囲となりますが、調査項目に反映させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

2点目ですが、第1回アカデミー推進協議会の議事録につきましては、先週、皆様にメールでお送りしております。内容をご確認いただき、修正等ございましたら、8月30日金曜日、時間がなくて大変恐縮ですが、今週の金曜日までに、恐れいりますがアカデミー推進課のメールアドレスまで、修正点をご連絡いただければ幸いです。また、本協議会の終了後に事務局職員がおりますので、直接お知らせいただいても結構ですので、よろしくお願いいたします。

私からは以上でございます。ありがとうございました。

### 3 閉会

山田会長

委員各位のご協力によりまして、7時半という、比較的早い時間に会議を終わらせることが出来ました。これで本日の会議を終了いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。

以上